

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科
社会福祉学専攻博士後期課程
博士論文審査結果の概要

研究科長・社会福祉学専攻主任
教授 福島喜代子

博士論文提出者 : 22GS-D51 池田 紀子
論文タイトル : 「スクールソーシャルワーカーの支援開始の判断と支援行動の関連性
—児童虐待事例の支援に焦点をあてて—」

〈審査結果の概要〉

1. 審査委員会

上記論文が、博士（社会福祉学）の学位請求論文として 2022 年 3 月末日に提出されたので、社会福祉学専攻教授会は、その審査のため、本学学位規定第 6 条の規定により、下記の 4 名の審査委員で組織する審査委員会を設けた。

主査	ルーテル学院大学教授	金子 和夫
副査	ルーテル学院大学教授	市川 一宏
審査委員	ルーテル学院大学教授	山口 麻衣
外部審査委員	明治学院大学名誉教授	松原 康雄

2. 書面審査

書面審査は、学位請求論文提出直後から口述試験が行われた 2022 年 8 月 4 日までの約 4 カ月にわたって上記 4 名の審査委員によって個別に行われ、あらかじめ専攻教授会で決定していた「博士論文評価表」によってそれぞれ評価を行った。また 4 名の委員は総合的な評価を記述した。

書面審査による評価は、研究方法、結果・分析、考察などの項目は全て A+ または A であり、先行研究の検討に B がみられた。総合評価は 1 名の委員が「優+」、3 名の委員が「優」であった。

3. 最終試験（口述試験）

最終試験（口述試験）は、2022 年 8 月 4 日に、上記 4 名の審査委員に加え、社会福祉学専攻の以下の者が参加して、合計 8 名で行われた。

教授	原島 博
教授	福島 喜代子
教授	高山 由美子
准教授	廣瀬 圭子

口述試験は、学会発表の形式をとって行われた。すなわち、学位請求者は、論文の内容について、学会の口頭発表と同様に、パワーポイントを使って発表し、終了後、試験委員の質問に回答した。質問は、連携について、システム理論の記述の仕方、調査のサンプルサイズ、分析で使用した変数、分析方法の妥当性（の説明の必要性）、スクールソーシャルワーカーに関する考察（雇用形態、勤務時間）、用語・英語の和訳の示し方、定義の示し方、児童相談所等についての記述等についてであった。それに対して、学位請求者は一定以上の説明力をもって回答をした。

質問やコメントは、論文の記述の仕方やバランス、細部についての疑問を正す内容か、もしくは論文の内容をよりよくするための加筆・修正の提案であった。

口述試験の評価は、あらかじめ社会福祉学専攻教授会が決定していた口述試験評価表によって行われた。評価の結果は、概念化および学術的な討論の能力について B をつけた審査員もいたが、他の項目は A であった。口述試験の総合評価は、3名の審査委員が「優」、1名の審査委員が「良」であった。

4. 最終審査

博士論文審査の判定合議は以下のとおり行われた。博士論文の書面審査の結果が専攻主任から報告された後、口述試験についての評価の結果が報告された。その後、審査委員による合議が行われ、全員一致で、**池田紀子** 氏の学位申請を承認し、その評価は「優」とすることに決定した。

5. 最終審査の報告と承認

最終審査の決定後、大学院社会福祉学専攻教授会が招集され、専攻主任より審査結果が報告され、その承認がなされた。

(以上)